

# 脱炭素先行地域（第3回） 選定結果について

2023年 4月  
環境省 大臣官房地域脱炭素事業推進課



## 脱炭素先行地域とは

- 地域脱炭素ロードマップに基づき、少なくとも100か所の脱炭素先行地域で、**2025年度までに、脱炭素に向かう地域特性等に応じた先行的な取組実施の道筋**をつけ、**2030年度までに実行**
- 農村・漁村・山村、離島、都市部の街区など多様な地域において、**地域課題を解決し、住民の暮らしの質の向上を実現**しながら脱炭素に向かう取組の方向性を示す。

### 脱炭素先行地域とは

民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減も地域特性に応じて実施する地域。

$$\text{民生部門の電力需要量} = \text{再エネ等の電力供給量} + \text{省エネによる電力削減量}$$

### 脱炭素先行地域の範囲の類型

全域	市区町村の全域、特定の行政区等の全域
住生活エリア	住宅街・住宅団地
ビジネス・商業エリア	中心市街地（大都市、地方都市） 大学、工業団地、港灣、空港等の特定サイト
自然エリア	農村・漁村・山村、離島、観光地・自然公園等
施設群	公共施設等のエネルギー管理を一元化することが合理的な施設群
地域間連携	複数の市区町村の全域、特定エリア等（連携都市圏の形成、都道府県との連携を含む）

### スケジュール

第1回選定	第2回選定	第3回選定	以降
<2022年> 1月25日～2月21日 公募実施 4月26日 結果公表 ※79件の計画提案から <b>26件</b> を選定	<2022年> 7月26日～8月26日 公募実施 11月1日 結果公表 ※50件の計画提案から <b>20件</b> を選定	<2023年> 2月7日～2月17日 公募実施 4月28日 結果公表 ※58件の計画提案から <b>16件</b> を選定	第4回公募は8月頃に実施予定 年2回程度、2025年度まで募集実施

# 第3回募集における主な変更点



## 民間事業者等の共同提案の要件化

- 脱炭素事業は地方公共団体だけで取り組むことはできず、民間事業者等との連携が不可欠であることから、第3回の公募から、**提案の実現可能性を高めるため、民間事業者等との共同提案を必須とする。**

## 「重点選定モデル」の創設

- 地域特性に応じた地方創生やまちづくりにも資する多様な脱炭素化モデルを創出するため、①関係省庁と連携した施策間連携、②複数の地方公共団体が連携した地域間連携、③地域版GXに貢献する取組、④民生部門電力以外の温室効果ガス削減に貢献する取組を「重点選定モデル」として募集し、要件に該当する**優れた提案を優先的に選定。**

### ① 施策間連携

各府省庁の支援事業を複数組み合わせることで取組を実施すること等により、施策間の相乗効果が期待できること。

#### 交通インフラ×コンパクトシティ

×  
脱炭素



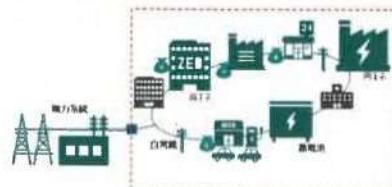
### ② 地域間連携

再生電力の融通や需給管理等、具体的な連携策により一体的に取り組むなど、複数の地方公共団体が連携して広域的に取り組むこと。



### ③ 地域版GX

自営線マイクログリッドなどの削減効果の大きな技術を導入することにより、当該技術の新たな需要を創出し、地域経済への貢献と経済成長につながることを期待できること。



### ④ 民生電力以外の取組

地域と暮らしに密接に関わる自動車・交通、農林水産業や観光等の地場産業、廃棄物・下水処理等の分野の温室効果ガスの排出等の削減に大きく貢献すること。



# 第3回脱炭素先行地域








- 共同提案を含め日本全国の67の地方公共団体から58件の計画提案が提出
- 第3回目として、2023年4月28日に、**16件を脱炭素先行地域として選定**

都道府県	主たる提案者	共同提案者	重点選定モデル	都道府県	主たる提案者	共同提案者	重点選定モデル
青森県	佐井村	佐井村漁業協同組合、株式会社さいエナジー	【施策間連携モデル】 海ごみ×漁業振興×脱炭素	島根県	松江市	株式会社山陰合同銀行、ごうぎんエナジー株式会社、中国電力株式会社、日鉄エンジニアリング株式会社、日鉄環境エネルギーソリューション株式会社、株式会社インターネットイニシアティブ、東京海上日動火災保険株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行、一般社団法人しまね産業資源循環協会、アースサポート株式会社、一般社団法人松江観光協会	
岩手県	紫波町	東日本電信電話株式会社岩手支店、NTTアノードエナジー株式会社、合同会社北上新電力、株式会社バイオストック、盛岡広域森林組合、有限会社二和木材、株式会社東北銀行、盛岡信用金庫、紫波太陽エネルギー(株)設立協議会	【施策間連携モデル】 農業振興×脱炭素	岡山県	瀬戸内市	みやまパワーHD株式会社、邑久町漁業協同組合、株式会社岡山村田製作所、株式会社中国銀行、備前日信信用金庫	
福島県	会津若松市	福島県、一般社団法人AICTコンソーシアム、公立大学法人会津大学、会津若松卸商団地協同組合、株式会社東邦銀行	【施策間連携モデル】 デジタル×脱炭素	高知県	須崎市	高知県日高村、高知ニューエナジー株式会社、土佐くらし農業協同組合、株式会社高知銀行	【地域版GXモデル】 民間裨益型 自営線マイクログリッド
栃木県	日光市	東京電力パワーグリッド株式会社栃木総支社、東武鉄道株式会社		高知県	北川村	四国電力株式会社、電源開発株式会社、株式会社四国銀行、高知県農業協同組合北川支所、一般社団法人北川村振興公社	
山梨県	甲斐市	東京電力パワーグリッド株式会社山梨総支社、グリーン・サマル株式会社		高知県	黒潮町	株式会社四国銀行、株式会社高知銀行、幅多信用金庫、株式会社アドバンテック、京都大学防災研究所、SDグリーンエナジー株式会社、株式会社黒潮町缶詰製作所、一般社団法人黒潮町農業公社	【施策間連携モデル】 津波避難対策×脱炭素
長野県	小諸市	株式会社シーエナジー、株式会社URリンク、国立大学法人信州大学、株式会社石本建築事務所、長野県厚生農業協同組合連合会浅間南麓こもろ医療センター、独立行政法人都市再生機構	【施策間連携モデル】 コンパクトシティ×脱炭素	熊本県	あさぎり町	株式会社あさぎりエナジー、あさぎり町有機センター、あさぎり地域づくり協同組合、株式会社あさぎり商社、株式会社熊本銀行、株式会社肥後銀行、一般社団法人熊本環境革新支援センター	
長野県	生坂村	株式会社松本山雅、平林建設株式会社、企業組合山仕事創造舎、松本ハイランド農業協同組合	【地域版GXモデル】 民間裨益型 自営線マイクログリッド	鹿児島県	日置市	ひおき地域エネルギー株式会社、太陽ガス株式会社、株式会社鹿児島銀行	
奈良県	生駒市	いごま市民パワー株式会社、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学、TJグループホールディングス株式会社、一般社団法人市民エネルギー生駒					
鳥取県	鳥取市	株式会社とっとり市民電力、株式会社山陰合同銀行、公立大学法人公立鳥取環境大学					

# 脱炭素先行地域(第3回)選定 施策間連携モデル





- 関係省庁の支援策等を具体的に活用し、脱炭素事業と組み合わせることで、**住民の暮らしの質の向上**や**農林水産業等の地域経済への裨益**、より効果的な**エネルギー・マネジメント**による温室効果ガス削減効果の更なる向上といった相乗効果が期待できる提案を「**施策間連携モデル**」として5件選定。

<p><b>海ごみ×漁業振興×脱炭素</b> ＜青森県佐井村＞</p> <p>漁村の水産加工場に新たに導入するボイラーの燃料として、漁協と連携して回収した<b>海岸漂着ごみ</b>から製造した<b>樹脂ペレット</b>を活用し、<b>漁協の事業継続性の確保</b>と<b>水産物のカーボンフリー化</b>による売上増加を目指す。</p> <p>水産加工場設置支援 (農林水産省) × 海岸漂着ごみ回収支援 (環境省)</p> <p><b>漁業振興効果拡大</b></p> 	<p><b>農業振興×脱炭素</b> ＜岩手県紫波町＞</p> <p><b>生ごみや廃棄リノ</b>等を原料とする<b>メタン発酵バイオガス発電</b>を導入するとともに、発生する消化液を「<b>水田活用の直接支払交付金</b>」(農林水産省)を活用して町が<b>作付転換を推奨</b>している<b>子実用トウモロコシ</b>等の肥料として活用。</p> <p>子実用トウモロコシ等への作付転換の推進 (農林水産省) × 脱炭素事業 (環境省)</p> <p><b>農業振興効果拡大</b></p> 	<p><b>デジタル×脱炭素</b> ＜福島県会津若松市＞</p> <p>電力の需給データ等をAIで分析し、蓄電池の充電により<b>複数エリア間で需給調整を効率的に行う体制</b>を構築するとともに、「<b>デジタル田園都市国家構想推進交付金</b>」(内閣府)で実装された<b>デジタル地域通貨</b>等を活用して<b>需要家の行動変容</b>を促す。</p> <p>デジタル技術 (内閣府) × 脱炭素事業 (環境省)</p> <p><b>デジタル技術を活用したスマートシティ構想の発展</b></p> 
<p><b>コンパクトシティ×脱炭素</b> ＜長野県小諸市＞</p> <p>都市再生特別措置法に基づく<b>立地適正化計画</b>で定める<b>都市機能誘導区域</b>における施設の集約化と合わせて、<b>エネルギー・マネジメント</b>を前提とした<b>再エネ導入</b>や<b>マイクログリッド</b>の構築、<b>100%再エネ稼働</b>による<b>EVモビリティシステム</b>導入に取組む。</p> <p>コンパクトシティ (国土交通省) × 脱炭素事業 (環境省)</p> <p><b>コンパクトシティの脱炭素化</b></p> 	<p><b>津波避難対策×脱炭素</b> ＜高知県黒潮町＞</p> <p>戸別<b>津波避難カルテ</b>の経験を活かし、<b>脱炭素カルテ</b>を活用して町民の行動変容を図る。「<b>個別避難計画作成モデル事業</b>」(内閣府)を活用して作成された<b>個別避難計画</b>とも連携して<b>福祉避難所</b>等へ<b>再エネ</b>を導入し、<b>要配慮者の安全な避難生活</b>を確保。</p> <p>津波避難対策 (内閣府) × 脱炭素事業 (環境省)</p> <p><b>津波避難対策と脱炭素の相乗効果</b></p> 	

# 脱炭素先行地域(第3回)選定 地域版GXモデル



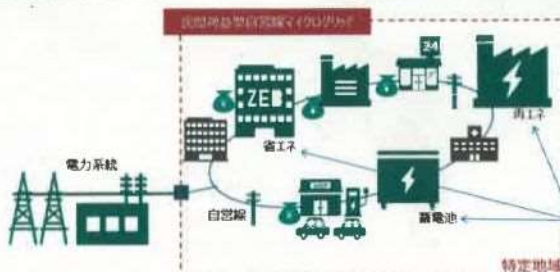
- 自営線マイクログリッドなどの**削減効果の大きな技術**を導入することにより、当該技術の新たな需要を創出し、**地域経済への貢献と経済成長**につながることを期待できる提案を「**地域版GXモデル**」として2件選定。

<p><b>自営線マイクログリッドによる地域エネルギー事業の創出</b> ＜長野県生坂村＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>村内唯一の食料品店や災害時の防災拠点と地域の主要産業であるブドウ園場を繋ぐ<b>民間裨益型自営線マイクログリッド</b>を構築し、系統連系が困難な地域においても<b>再エネの導入・利用</b>を可能とするとともに、<b>レジリエンス強化</b>を図る。</li> <li>建設工事を地元建設会社に発注し、新たに設立する<b>地域エネルギー会社</b>が運営・保守を担うことにより、<b>地域内経済循環</b>を実現。有害鳥獣対策に必要な電力を<b>自立電源</b>で賄う体制を確保し、主要産業であるブドウの品質の確保と<b>ブドウ農家の収益性向上</b>を図る。</li> </ul>  <p>ブドウ園場</p>	<p><b>トマト栽培ハウスの熱供給の脱炭素化による農家の経営安定化</b> ＜高知県須崎市・日高村＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>点在する<b>遊休地</b>を活用して<b>太陽光発電</b>を導入し、<b>民間裨益型自営線マイクログリッド</b>を構築し、電気から<b>温水</b>を製造・<b>蓄熱</b>して、夜間に<b>トマト栽培ハウスの暖房</b>に使用</li> <li><b>トマト生産農家の農業ハウス</b>において、加温のために使用する<b>重油の価格高騰</b>による<b>経営圧迫</b>に対応するとともに、<b>農業の事業継続性</b>を確保して、<b>地域の農業の収益性向上</b>を図る。</li> </ul> 
--	--

## 特定地域脱炭素移行加速化交付金

(令和5年度予算 3,000百万円 (新規))

新たに交付金を創設し、自営線マイクログリッドに接続する温室効果ガス排出削減効果の高い主要な脱炭素製品・技術(再エネ・省エネ・蓄エネ)等の導入や、民間事業者による省エネ等設備投資により、地域経済の活性化をもたらす取組を支援。



＜支援対象＞  
対象地域 脱炭素先行地域において、民間事業者が裨益する自営線マイクログリッドを構築する地域(特定地域)  
交付期間 概ね5年程度、最長で2030年度まで  
交付率 原則2/3(物品によっては定額)  
交付上限 50億円  
地域脱炭素移行・再エネ推進交付金の合計額は最大60億円(全期間総額)

自営線によるマイクログリッドに接続する温室効果ガス排出削減効果の高い主要な脱炭素製品・技術(再エネ・省エネ・蓄エネ)等の導入を支援

# 地域脱炭素の推進のための交付金

～地域脱炭素移行・再エネ推進交付金、特定地域脱炭素移行加速化交付金～



2030年度目標及び2050年カーボンニュートラルに向けて、民間と共同して意欲的に脱炭素に取り組み**地方公共団体等に対して、地域の脱炭素トランジションへの投資として本交付金を交付し、概ね5年程度にわたり継続的かつ包括的に支援する。**

## 地域脱炭素の推進のための交付金

令和5年度予算 35,000百万円 (20,000百万円)  
令和4年度第2次補正予算額 5,000百万円

### 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金

令和5年度予算 32,000百万円 (20,000百万円)  
令和4年度第2次補正予算額 5,000百万円

### 特定地域脱炭素移行加速化交付金

令和5年度予算 3,000百万円 (新規)

	脱炭素先行地域づくり事業	重点対策加速化事業	民間裨益型自営線マイクログリッド事業
交付対象	脱炭素先行地域づくりに取り組む地方公共団体 (一定の地域で民生部門の電力消費に伴うCO2排出実質ゼロ達成等)	自家消費型の太陽光発電など重点対策を加速的にかつ複合実施する地方公共団体	脱炭素先行地域内において、民間事業者が裨益する自営線マイクログリッドを構築された地域(特定地域)の地方公共団体
交付率	原則 2/3 ※1	2/3～1/3、定額	原則 2/3 ※1
上限額	50億円/計画 ※2	都道府県：20億円、市区町村：15億円	50億円/計画 ※2
支援内容	<p><b>再エネ設備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の再エネポテンシャルを最大限活かした再エネ設備の導入(※3)</li> <li>再エネ発電設備、再エネ熱・未利用熱利用設備等</li> </ul> <p><b>基盤インフラ設備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域再エネ等の利用の最大化のための基盤インフラ設備の導入</li> <li>蓄エネ設備、自営線、再エネ由来水素関連設備、エネマシシステム等</li> </ul> <p><b>省CO2等設備等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域再エネ等の利用の最大化のための省CO2等設備の導入</li> <li>ZEB・ZEH、断熱改修、ゼロカーボンドライブ、その他各種省CO2設備等</li> </ul>	<p><b>重点対策の組み合わせ等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自家消費型の太陽光発電(※3)</li> <li>地域共生・地域裨益型再エネの立地</li> <li>業務ビル等の徹底省エネ・ZEB化誘導</li> <li>住宅・建築物の省エネ性能等の向上</li> <li>ゼロカーボン・ドライブ</li> </ul>	<p><b>民間裨益型自営線マイクログリッド事業</b></p> <p>自営線によるマイクログリッドに接続する温室効果ガス排出削減効果の高い主要な脱炭素製品・技術(再エネ・省エネ・蓄エネ)等であって、民間事業者への再エネ供給に資する設備導入や、民間事業者による省エネ等設備投資</p>

※1 財政力指数が全国平均(0.51)以下の地方公共団体は、一部の設備の交付率を3/4  
 ※2 特定地域脱炭素移行加速化交付金を活用する場合の両交付金合計の上限額：50億円+ (特定地域脱炭素移行加速化交付金の交付額の1/2 (上限10億円))  
 ※3 令和4年度第2次補正予算以降において、公共施設への太陽光発電設備導入はPPA等に限る。

# 脱炭素先行地域の選定状況 (第1回～第3回)

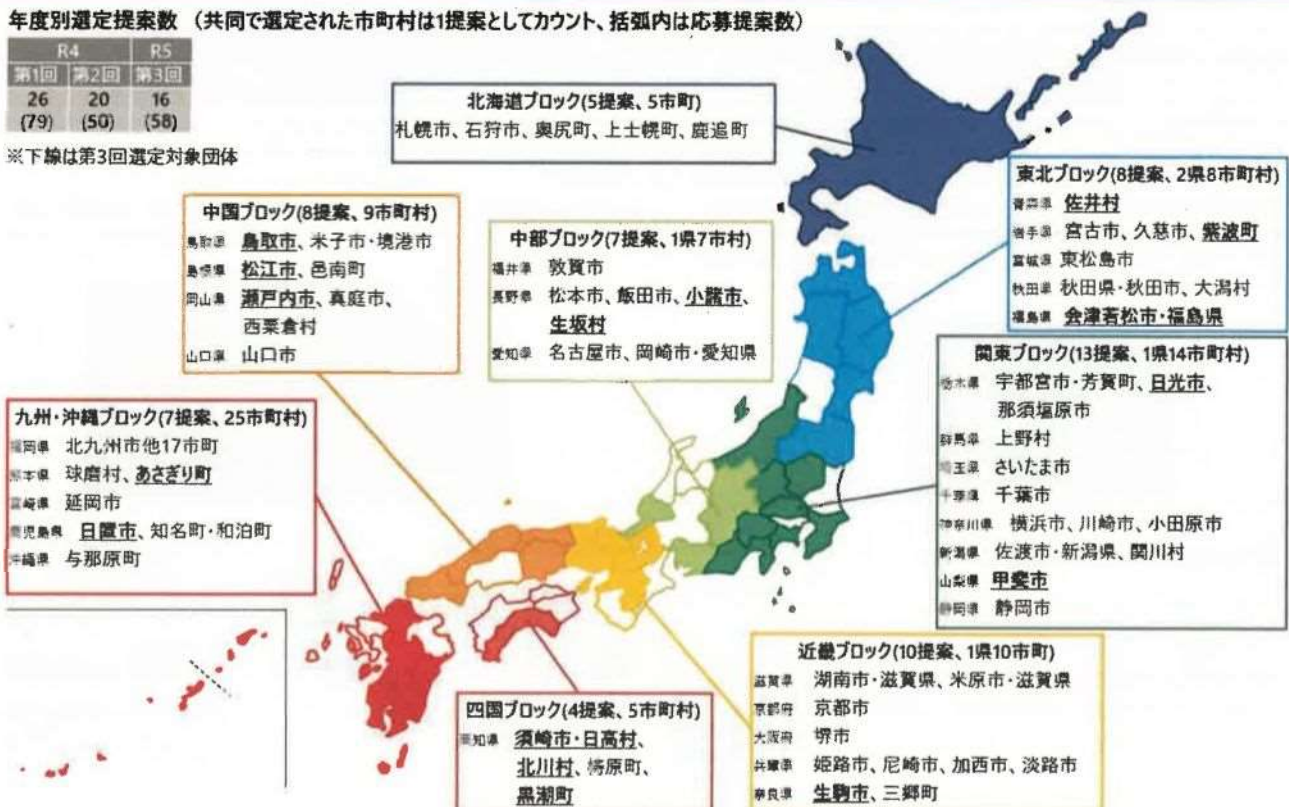


■ 第3回までに、全国32道府県83市町村の**62提案**が選定された。

年度別選定提案数 (共同で選定された市町村は1提案としてカウント、括弧内は応募提案数)

	R4	R5
第1回	26	20
第2回	(79)	(50)
第3回	16	(58)

※下線は第3回選定対象団体



# 鳥取市：RE:Birth（再エネ創出）で進める地域脱炭素と地域のRebirth（進化・再生）



脱炭素先行地域の対象：若葉台地区・佐治町全域

主なエネルギー需要家：若葉台エリア：戸建住宅1,680世帯、民間施設28施設、公共施設2施設、大学施設1施設、工場9施設  
佐治町エリア：戸建住宅740世帯、民間施設10施設、公共施設21施設

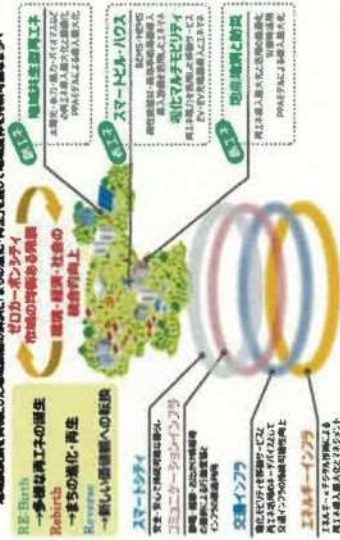
共同提案者：株式会社とっとり市民電力、株式会社山陰合同銀行、公立大学法人公立鳥取環境大学

## 取組の全体像

郊外のニュータウンである若葉台エリアと過疎化の進む中山間地域の佐治町エリアにおいて、多様な再生エネルギーを活用しながら、**自営線マイクログリッド**や分散型エネルギー設備の最大導入と群制御技術を活用した**VPP**を導入し、地域の再生エネルギーを最大限活用して脱炭素化を実現。「多極ネットワーク型コンパクトシティ」における地域生活拠点に位置づけられる両エリアにおいて、貨客混載や生活交通を同時活用した交通ネットワークの構築を進めるとともに、地域の未利用森林資源の活用による林業振興や農業振興につなげ、**中山間地域の再生・持続モデルを構築**する。

## 1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 佐治町エリア内の佐治川流域に**小水力発電**(496kW)を導入
- ② 若葉台エリアの既存戸建住宅750戸や公共施設等にオンサイトPPAで太陽光発電(4,079kW)、市有遊休地へオフサイトPPAで太陽光発電(3,700kW)・蓄電池を面的に導入するとともに、**VPP**によるエネルギーマネジメントで自家消費率を最大化



- ③ 若葉台エリアの公立鳥取環境大学では、太陽光発電設備の導入と**ZEB化**によるキャンパス全体のカーボンニュートラル化を目指し、その知見を教育・研究において活用

## 2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① 地元企業のEVリース事業や**自動運転移動サービス**、電化モビリティによる**デマンド交通**の導入で持続可能な地域交通システムを再構築
- ② **バイオマス熱電供給設備**を導入し、未利用森林資源から燃料を供給するとともに、発生する熱をゼロカーボンファームでのハウス栽培に活用
- ③ 住宅に導入した太陽光発電の余剰分を、工業団地内の製造業に供給

## 3. 取組により期待される主な効果

- ① 家庭用デバイスの**メーカーに依存しない汎用性**のある分散型エネルギーソースの**群制御技術**を活用したVPPを導入し、他地域に展開可能なモデルを創出
- ② 蓄電池や電化モビリティの導入を促進し、**災害時のエネルギー供給体制を強靱化**
- ③ 未利用材の活用やスマート農業による**林業振興・農業振興**を図り、外部人材の流入や関係人口の創出を実現

## 4. 主な取組のスケジュール

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
		小水力発電導入			
		戸建住宅への太陽光発電・蓄電池導入			
		公共施設・市有遊休地等への太陽光発電・蓄電池導入			
		公立鳥取環境大学のZEB化			
		EVコミュニティ導入・公用車のEV化			
		若葉台エリアの余剰電力を工業団地へ融通			
		バイオマス熱電供給設備導入			

